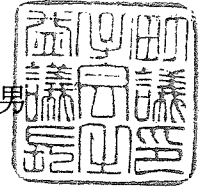




益議第30号
令和2年6月18日

益子町長 大塚 朋之 様

益子町議会議長 星 野 壽 男



新ましこ未来計画の検証について

過日の全員協議会等において、新ましこ未来計画の検証を行いましたので報告します。

記

- 1 協議日時等
令和2年4月28日(火)
13:30～16:19 全員協議会室、第1委員会室

令和2年5月28日(木)
16:30～17:40 全員協議会室、第1委員会室

令和2年6月4日(木)
15:23～17:16 第1委員会室

令和2年6月11日(木)
11:30～12:15 議場
- 2 検証結果等 別紙「提言書」のとおり

新ましこ未来計画に関する提言書

1. 基本目標 幸せを感じる暮らしをつくる

- ① 人口の社会動態減少対策として、ターゲットを明確にするため、これまでの移住データ等を精査し、移住定住策を一覧できる施策広報物を作成、活用した事業実施が有効である。また、移住者迎え入れのための空き家バンク制度では、需要として望まれる物件の確保が必要であり、登録数増加を図るための定期的な調査も必要である。
- ② 年間出生数の減少については、若年女性の減少対策や成婚率向上のため、婚活事業をさらに一元化できるよう各関係機関が連携する協議会等の推進を図る必要がある。定期的な情報交換、目標値の設定等を行い、婚活パーティー等のマッチング事業の企画、運営を実施されたい。その上で、子育て支援事業計画に沿った町独自の支援策をPRされたい。

2. 基本目標 風土に根ざした産業をつくる

- ① 新規農産物品目の作付け支援や益子産ブランド化の推進等を図られたい。さらに担い手育成を図るとともに、集落営農組織化や農業生産法人化をより一層推進されたい。また、新たに整備した加工所を有効利用して6次産業化を積極的に取り組まれたい。
- ② 町内総生産の向上、人口の社会動態増加策となるよう、企業や教育、福祉施設等の誘致事業に取り組み、調査研究をはじめ、情報収集能力を身に付け、職員の意識向上、迅速に対応できるためのタスクフォース的組織の構築等の推進を図られたい。
- ③ 観光戦略の中で、観光戦略会議、行政、観光協会、商工会、各種団体等が担う役割等の分担化を明確にする必要がある。また、地域ポイントカード **mashipo** 導入の目的と役割の定義を明確にして、観光施策の指針となる情報分析、マーケティングに繋がるよう、協議会の在り方を確立されたい。

3. 基本目標 社会的に自立した人を育てる

- ① 小中学校を通して自立した人づくりをするため、自ら問題設定や調査学習、報告会を実施するすべてのプロセスにおいて自主性を養えるような児童・生徒の育成策の拡充が必要である。自分の未来の職業に対する職業観・勤労観を伸展させるマイチャレンジ体験は社会的に自立した人を育てるのに効果的なので、多様性や内容の充実等をなお一層図るべきである。
- ② ましこチャレンジクラブは児童・生徒から高齢者に至るまで、健康増進・体力向上・競技力の向上・健康長寿等、多方面にわたって効果的なので、プログラムの充実と広報活動の徹底に努める必要がある。また、スポーツ振興くじ助成金について、2年後に助成期限が切れるため、今後の対応を検討されたい。

4. 基本目標 地域資産を蓄積する

- ① ましこ世間遺産認定数50件となったが、ガイドブック等を作成し、地域との共通認識を図った上で観光等に活用できるように周知徹底されたい。さらに未だ認定に至らない遺産が想定されるので、地元の自治会に推薦していただくよう推進されたい。
- ② ランドスケープデザインについては、長期的視点に立った今後のまちづくりの指標となることから、町民との共通認識を図り、地域基盤整備に活かせるよう努められたい。また、役場周辺土地区画整理事業の本同意取得率の向上を含め、計画通り実施され成果が残せるよう、土地区画整理組合への支援強化を図られたい。

5. 基本目標 健全な経営体を持続する

- ① 今後コロナウイルス感染症の影響で、より厳しい財政運営を強いられることになるということを踏まえ、各施策の取捨選択や各事務事業のICT化推進をはじめ、施策事業の見直し及び業務効率の向上を図られたい。
- ② 職員定数や人員配置の適正化を検証し、中長期的展望を見据え、職員の年齢構成等のバランスを考慮する必要がある。あわせて現状の働き方改革に沿うよう、見直しが必要である。また、改善した人事評価制度を効率良く活用し、職員の育成策に繋げられたい。